

島根原子力発電所第2号機 指摘事項に対する回答整理表(強度計算書:SA クラス2 容器(PCV 関係))

No.	指摘日	資料の該当箇所				コメント内容	回答日	回答	資料等への反映箇所	備考
		ヒアリング資料番号	図書種別, 目録番号	図書名称	該当頁					
設置変更許可審査からの申送り事項 No.168	審査会合 (R1.12.10)	-	設置許可まとめ資料有効性評価付録2	原子炉格納容器の温度及び圧力に関する評価	付録2 別紙15-4	ドライウェル主フランジのガスケット増厚により, 据え付け状態が変わることから, トルク管理について説明する。	今回回答	補足説明資料No.18に記載のとおり, ガスケット座の基本幅 b_0 及びガスケット座の有効幅 b は, ガスケットの増厚前後で変わらず, 計算上必要なボルト荷重はガスケットの増厚前後で変わらないことから, ガスケットの増厚はドライウェル主フランジ締め付けボルトのトルク管理に影響を及ぼさないことを確認した。	-	分類【D】

島根原子力発電所第2号機 工認記載適正化箇所(強度計算書:SA クラス2 容器(PCV 関係))

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
1	NS2-添3-009-01	VI-3-3-7-1-1 ドライウエルの強度計算書	目次	計算精度及び数値の表示桁等を明確化するため、「2.5 計算精度と数値の丸め方」を追記し、ページ番号を適正化しました。	2022/12/12	
2	NS2-添3-009-01	VI-3-3-7-1-1 ドライウエルの強度計算書	P.3	許容引張応力(S)等の引用元を明確化したことに伴い、「発電用原子力設備規格(設計・建設規格…)」を繰り返し記載することとなるため、「設計・建設規格」と省略した記載とする旨を追記しました。(下線部参照) (旧)発電用原子力設備規格(設計・建設規格(2005年版(2007年追補版含む。))JSME S NC1-2005/2007) (新)発電用原子力設備規格(設計・建設規格(2005年版(2007年追補版含む。))JSME S NC1-2005/2007)(以下「設計・建設規格」という。)	2022/12/12	
3	NS2-添3-009-01	VI-3-3-7-1-1 ドライウエルの強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)許容引張応力 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表3 に定める値	2022/12/12	
4	NS2-添3-009-01	VI-3-3-7-1-1 ドライウエルの強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)設計引張強さ (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表9 に定める値	2022/12/12	
5	NS2-添3-009-01	VI-3-3-7-1-1 ドライウエルの強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)設計降伏点 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8 に定める値	2022/12/12	
6	NS2-添3-009-01	VI-3-3-7-1-1 ドライウエルの強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)40℃における設計降伏点 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8 に定める材料の40℃における値	2022/12/12	
7	NS2-添3-009-01	VI-3-3-7-1-1 ドライウエルの強度計算書	P.5	計算精度及び数値の表示桁等を明確化するため、「2.5 計算精度と数値の丸め方」を追記しました。	2022/12/12	
8	NS2-添3-009-01	VI-3-3-7-1-1 ドライウエルの強度計算書	P.6	項目名の記載にあわせ、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)ドライウエルの形状及び主要寸法を図3-1に、使用材料及び使用部位を表3-1に示す。 (新)ドライウエルの形状及び主要寸法を図3-1に、使用材料及び評価部位を表3-1に示す。	2022/12/12	
9	NS2-添3-009-01	VI-3-3-7-1-1 ドライウエルの強度計算書	P.8	項目名の記載にあわせ、適正化しました。(下線部参照) (旧)使用部位 (新)評価部位	2022/12/12	
10	NS2-添3-009-01	VI-3-3-7-1-1 ドライウエルの強度計算書	P.13	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)重大事故等対処設備としての評価圧力及び評価温度は、以下のとおりとする。 (新)重大事故等対処設備としての評価圧力及び評価温度は、VI-1-8-1「原子炉格納施設の設計条件に関する説明書」より、以下のとおりとする。	2022/12/12	
11	NS2-添3-009-01	VI-3-3-7-1-1 ドライウエルの強度計算書	P.13	「2.5 計算精度と数値の丸め方」の追加に伴い、死荷重の桁数の記載を見直しました。	2022/12/12	
12	NS2-添3-009-03	VI-3-3-7-1-3 サプレッションチェンバの強度計算書	目次	計算精度及び数値の表示桁等を明確化するため、「2.5 計算精度と数値の丸め方」を追記し、ページ番号を適正化しました。	2022/12/12	
13	NS2-添3-009-03	VI-3-3-7-1-3 サプレッションチェンバの強度計算書	P.2	支持構造の明確化のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)サプレッションチェンバは、サプレッションチェンバサポートに支持される。 (新)サプレッションチェンバは、補強板を介してサプレッションチェンバサポートに接合され、支持される。	2022/12/12	
14	NS2-添3-009-03	VI-3-3-7-1-3 サプレッションチェンバの強度計算書	P.2	概略構造図に補強板の指示を追加しました。	2022/12/12	
15	NS2-添3-009-03	VI-3-3-7-1-3 サプレッションチェンバの強度計算書	P.3	許容引張応力(S)等の引用元を明確化したことに伴い、「発電用原子力設備規格(設計・建設規格…)」を繰り返し記載することとなるため、「設計・建設規格」と省略した記載とする旨を追記しました。(下線部参照) (旧)発電用原子力設備規格(設計・建設規格(2005年版(2007年追補版含む。))JSME S NC1-2005/2007) (新)発電用原子力設備規格(設計・建設規格(2005年版(2007年追補版含む。))JSME S NC1-2005/2007)(以下「設計・建設規格」という。)	2022/12/12	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
16	NS2-添3-009-03	VI-3-3-7-1-3 サプレッションチェンバの強度計算書	P.4	要目表の記載にあわせて、適正化しました。 (旧)直径 (新)内径	2022/12/12	
17	NS2-添3-009-03	VI-3-3-7-1-3 サプレッションチェンバの強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)許容引張応力 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表3 に定める値	2022/12/12	
18	NS2-添3-009-03	VI-3-3-7-1-3 サプレッションチェンバの強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)設計引張強さ (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表9 に定める値	2022/12/12	
19	NS2-添3-009-03	VI-3-3-7-1-3 サプレッションチェンバの強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)設計降伏点 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8 に定める値	2022/12/12	
20	NS2-添3-009-03	VI-3-3-7-1-3 サプレッションチェンバの強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)40°Cにおける設計降伏点 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8 に定める材料の40°Cにおける値	2022/12/12	
21	NS2-添3-009-03	VI-3-3-7-1-3 サプレッションチェンバの強度計算書	P.5	計算精度及び数値の表示桁等を明確化するため、「2.5 計算精度と数値の丸め方」を追記しました。	2022/12/12	
22	NS2-添3-009-03	VI-3-3-7-1-3 サプレッションチェンバの強度計算書	P.6	項目名の記載にあわせ、適正化しました。(下線部参照) (旧)サプレッションチェンバの形状及び主要寸法を図3-11に、使用材料及び使用部位を表3-1に示す。 (新)サプレッションチェンバの形状及び主要寸法を図3-11に、使用材料及び評価部位を表3-1に示す。	2022/12/12	
23	NS2-添3-009-03	VI-3-3-7-1-3 サプレッションチェンバの強度計算書	P.6	B部詳細図に記載していたt3について、図上では内容がわかりにくかったため、t3が補強板の厚さであることを注記による説明に変更しました。	2022/12/12	
24	NS2-添3-009-03	VI-3-3-7-1-3 サプレッションチェンバの強度計算書	P.7	項目名の記載にあわせ、適正化しました。(下線部参照) (旧)使用部位 (新)評価部位	2022/12/12	
25	NS2-添3-009-03	VI-3-3-7-1-3 サプレッションチェンバの強度計算書	P.11	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)重大事故等対処設備としての評価圧力及び評価温度は、以下のとおりとする。 (新)重大事故等対処設備としての評価圧力及び評価温度は、VI-1-8-1「原子炉格納施設の設計条件に関する説明書」より、以下のとおりとする。	2022/12/12	
26	NS2-添3-009-03	VI-3-3-7-1-3 サプレッションチェンバの強度計算書	P.11	「2.5 計算精度と数値の丸め方」の追加に伴い、死荷重の桁数の記載を見直しました。	2022/12/12	
27	NS2-添3-009-03	VI-3-3-7-1-3 サプレッションチェンバの強度計算書	P.11	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)重大事故等対処設備の評価における水位は、以下のとおりとする。 (新)重大事故等対処設備の評価における水位は、VI-1-8-1「原子炉格納施設の設計条件に関する説明書」より、以下のとおりとする。	2022/12/12	
28	NS2-添3-009-03	VI-3-3-7-1-3 サプレッションチェンバの強度計算書	P.12	モデル化対象部位を明確化するため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)解析モデルは、構造及び荷重の伝達経路を考慮し、サプレッションチェンバ、サプレッションチェンバサポート、ストレーナ及びサプレッションチェンバ内部水をモデル化する。 (新)解析モデルは、構造及び荷重の伝達経路を考慮し、サプレッションチェンバ 胴 、 補強リング 、サプレッションチェンバサポート、ストレーナ及びサプレッションチェンバ内部水をモデル化する。 補強リング については、 補強リングの質量分布を考慮するためにモデル化し、剛体として扱う。	2022/12/12	
29	NS2-添3-009-03	VI-3-3-7-1-3 サプレッションチェンバの強度計算書	P.13	図4-1を適正化しました。	2022/12/12	
30	NS2-添3-009-03	VI-3-3-7-1-3 サプレッションチェンバの強度計算書	P.13	対象部位を明確化するため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)サプレッションチェンバ (新)サプレッションチェンバ 胴	2022/12/12	
31	NS2-添3-009-03	VI-3-3-7-1-3 サプレッションチェンバの強度計算書	P.14	記載の明確化のため図中に要素数・節点数等を追記しました。	2022/12/12	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
32	NS2-添3-009-05	VI-3-3-7-1-5 ベント管の強度計算書	目次	計算精度及び数値の表示桁等を明確化するため、「2.5 計算精度と数値の丸め方」を追記し、ページ番号を適正化しました。	2022/12/12	
33	NS2-添3-009-05	VI-3-3-7-1-5 ベント管の強度計算書	P.3	許容引張応力(S)等の引用元を明確化したことに伴い、「発電用原子力設備規格(設計・建設規格…)」を繰り返し記載することとなるため、「設計・建設規格」と省略した記載とする旨を追記しました。(下線部参照) (旧)発電用原子力設備規格(設計・建設規格(2005年版(2007年追補版含む。))JSME S NC1-2005/2007) (新)発電用原子力設備規格(設計・建設規格(2005年版(2007年追補版含む。))JSME S NC1-2005/2007)(以下「設計・建設規格」という。)	2022/12/12	
34	NS2-添3-009-05	VI-3-3-7-1-5 ベント管の強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)許容引張応力 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表3 に定める値	2022/12/12	
35	NS2-添3-009-05	VI-3-3-7-1-5 ベント管の強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)設計引張強さ (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表9 に定める値	2022/12/12	
36	NS2-添3-009-05	VI-3-3-7-1-5 ベント管の強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)設計降伏点 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8 に定める値	2022/12/12	
37	NS2-添3-009-05	VI-3-3-7-1-5 ベント管の強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)40℃における設計降伏点 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8 に定める材料の40℃における値	2022/12/12	
38	NS2-添3-009-05	VI-3-3-7-1-5 ベント管の強度計算書	P.5	計算精度及び数値の表示桁等を明確化するため、「2.5 計算精度と数値の丸め方」を追記しました。	2022/12/12	
39	NS2-添3-009-05	VI-3-3-7-1-5 ベント管の強度計算書	P.6	項目名の記載にあわせ、適正化しました。(下線部参照) (旧)ベント管の形状及び主要寸法を図3-1に、使用材料及び使用部位を表3-1に示す。 (新)ベント管の形状及び主要寸法を図3-1に、使用材料及び評価部位を表3-1に示す。	2022/12/12	
40	NS2-添3-009-05	VI-3-3-7-1-5 ベント管の強度計算書	P.6	項目名の記載にあわせ、適正化しました。(下線部参照) (旧)使用部位 (新)評価部位	2022/12/12	
41	NS2-添3-009-05	VI-3-3-7-1-5 ベント管の強度計算書	P.8	ベント管について、要目表の変更にあわせて施設区分を圧力低減設備その他の安全設備へ変更しました。 (旧)原子炉格納容器 (新)圧力低減設備その他安全設備	2022/12/12	
42	NS2-添3-009-05	VI-3-3-7-1-5 ベント管の強度計算書	P.10	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)重大事故等対処設備としての評価圧力及び評価温度は、以下のとおりとする。 (新)重大事故等対処設備としての評価圧力及び評価温度は、 <u>VI-1-8-1「原子炉格納施設的设计条件に関する説明書」より</u> 以下のとおりとする。	2022/12/12	
43	NS2-添3-009-05	VI-3-3-7-1-5 ベント管の強度計算書	P.10	他の強度計算書と記載を統一するため、ベント系の死荷重の数値を追記しました。	2022/12/12	
44	NS2-添3-009-05	VI-3-3-7-1-5 ベント管の強度計算書	P.10	記載の統一のため、ドライウェルの死荷重の数値を追記しました。	2022/12/12	
45	NS2-添3-009-05	VI-3-3-7-1-5 ベント管の強度計算書	P.11	用語の統一のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)サブプレッションチェンバ強め輪 (新)サブプレッションチェンバ補強リング	2022/12/12	
46	NS2-添3-009-05	VI-3-3-7-1-5 ベント管の強度計算書	P.12	用語の統一のため、記載を適正化しました。(下線部参照) また、記載の明確化のため図中に要素数・節点数を追記しました。 (旧)サブプレッションチェンバ強め輪 (新)サブプレッションチェンバ補強リング	2022/12/12	
47	NS2-添3-009-05	VI-3-3-7-1-5 ベント管の強度計算書	P.13	水質量(内部水)の表示桁を有効数字2桁としていましたが、「2.5計算精度と数値の丸め方」に従い有効数字3桁に変更しました。	2022/12/12	
48	NS2-添3-009-05	VI-3-3-7-1-5 ベント管の強度計算書	P.14	記載の明確化のため図中に要素数・節点数を追記しました。	2022/12/12	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
49	NS2-添3-009-05	VI-3-3-7-1-5 ベント管の強度計算書	P.17	「4.2.4 設計荷重」の記載にあわせ、適正化しました。また、応力算出方法を明確化しました。(下線部参照) (旧)ベント管に作用する自重による応力は、4.3項のベント系の解析モデルで算出した荷重と、ベント管とドライウエルとの結合部の解析モデルにて得られた単位荷重による応力から算出する。 (新)ベント管に作用する死荷重による応力は、4.3項のベント系の解析モデルで算出した荷重と、ベント管とドライウエルとの結合部の解析モデルに単位荷重を負荷して算出された応力に、荷重比を乗じて算出する。	2022/12/12	
50	NS2-添3-009-05	VI-3-3-7-1-5 ベント管の強度計算書	P.17	「4.2.4 設計荷重」の記載にあわせ、適正化しました。(下線部参照) (旧)ドライウエルに作用する圧力及び自重による応力は、VI-3-3-7-1-1「ドライウエルの強度計算書」において算出された応力を用いる。 (新)ドライウエルに作用する圧力及び死荷重による応力は、VI-3-3-7-1-1「ドライウエルの強度計算書」において算出された応力を用いる。	2022/12/12	
51	NS2-添3-009-07	VI-3-3-7-1-7 機器搬入口の強度計算書	目次	計算精度及び数値の表示桁等を明確化するため、「2.5 計算精度と数値の丸め方」を追記し、ページ番号を適正化しました。	2022/12/12	
52	NS2-添3-009-07	VI-3-3-7-1-7 機器搬入口の強度計算書	P.3	許容引張応力(S)等の引用元を明確化したことに伴い、「発電用原子力設備規格(設計・建設規格…)」を繰り返し記載することとなるため、「設計・建設規格」と省略した記載とする旨を追記しました。(下線部参照) (旧)発電用原子力設備規格(設計・建設規格(2005年版(2007年追補版含む。))JSME S NC1-2005/2007) (新)発電用原子力設備規格(設計・建設規格(2005年版(2007年追補版含む。))JSME S NC1-2005/2007)(以下「設計・建設規格」という。)	2022/12/12	
53	NS2-添3-009-07	VI-3-3-7-1-7 機器搬入口の強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)許容引張応力 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表3 に定める値	2022/12/12	
54	NS2-添3-009-07	VI-3-3-7-1-7 機器搬入口の強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)設計引張強さ (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表9 に定める値	2022/12/12	
55	NS2-添3-009-07	VI-3-3-7-1-7 機器搬入口の強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)設計降伏点 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8 に定める値	2022/12/12	
56	NS2-添3-009-07	VI-3-3-7-1-7 機器搬入口の強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)40℃における設計降伏点 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8 に定める材料の40℃における値	2022/12/12	
57	NS2-添3-009-07	VI-3-3-7-1-7 機器搬入口の強度計算書	P.5	計算精度及び数値の表示桁等を明確化するため、「2.5 計算精度と数値の丸め方」を追記しました。	2022/12/12	
58	NS2-添3-009-07	VI-3-3-7-1-7 機器搬入口の強度計算書	P.6	項目名にあわせて、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)機器搬入口の形状及び主要寸法を図3-11に、使用材料及び使用部位を表3-11に示す。 (新)機器搬入口の形状及び主要寸法を図3-11に、使用材料及び評価部位を表3-11に示す。	2022/12/12	
59	NS2-添3-009-07	VI-3-3-7-1-7 機器搬入口の強度計算書	P.7	項目名にあわせて、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)使用部位 (新)評価部位	2022/12/12	
60	NS2-添3-009-07	VI-3-3-7-1-7 機器搬入口の強度計算書	P.11	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)重大事故等対処設備としての評価圧力及び評価温度は、以下のとおりとする。 (新)重大事故等対処設備としての評価圧力及び評価温度は、VI-1-8-1「原子炉格納施設の設計条件に関する説明書」より、以下のとおりとする。	2022/12/12	
61	NS2-添3-009-07	VI-3-3-7-1-7 機器搬入口の強度計算書	P.11	「2.5 計算精度と数値の丸め方」の追加に伴い、機器搬入口の自重について、桁数の記載を見直しました。また、ドライウエルの自重を追加しました。	2022/12/12	
62	NS2-添3-009-09	VI-3-3-7-1-9 逃がし安全弁搬出ハッチの強度計算書	目次	計算精度及び数値の表示桁等を明確化するため、「2.5 計算精度と数値の丸め方」を追記し、ページ番号を適正化しました。	2022/12/12	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
63	NS2-添3-009-09	VI-3-3-7-1-9 逃がし安全弁搬出ハッチの強度計算書	P.3	許容引張応力(S)等の引用元を明確化したことに伴い、「発電用原子力設備規格(設計・建設規格…)」を繰り返し記載することとなるため、「設計・建設規格」と省略した記載とする旨を追記しました。(下線部参照) (旧)発電用原子力設備規格(設計・建設規格(2005年版(2007年追補版含む。))JSME S NC1-2005/2007) (新)発電用原子力設備規格(設計・建設規格(2005年版(2007年追補版含む。))JSME S NC1-2005/2007)(以下「設計・建設規格」という。)	2022/12/12	
64	NS2-添3-009-09	VI-3-3-7-1-9 逃がし安全弁搬出ハッチの強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)許容引張応力 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表3 に定める値	2022/12/12	
65	NS2-添3-009-09	VI-3-3-7-1-9 逃がし安全弁搬出ハッチの強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)設計引張強さ (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表9 に定める値	2022/12/12	
66	NS2-添3-009-09	VI-3-3-7-1-9 逃がし安全弁搬出ハッチの強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)設計降伏点 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8 に定める値	2022/12/12	
67	NS2-添3-009-09	VI-3-3-7-1-9 逃がし安全弁搬出ハッチの強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)40°Cにおける設計降伏点 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8 に定める材料の40°Cにおける値	2022/12/12	
68	NS2-添3-009-09	VI-3-3-7-1-9 逃がし安全弁搬出ハッチの強度計算書	P.5	計算精度及び数値の表示桁等を明確化するため、「2.5 計算精度と数値の丸め方」を追記しました。	2022/12/12	
69	NS2-添3-009-09	VI-3-3-7-1-9 逃がし安全弁搬出ハッチの強度計算書	P.6	項目名の記載にあわせ、適正化しました。(下線部参照) (旧)逃がし安全弁搬出ハッチの形状及び主要寸法を図3-1に、使用材料及び使用部位を表3-1に示す。 (新)逃がし安全弁搬出ハッチの形状及び主要寸法を図3-1に、使用材料及び評価部位を表3-1に示す。	2022/12/12	
70	NS2-添3-009-09	VI-3-3-7-1-9 逃がし安全弁搬出ハッチの強度計算書	P.7	項目名の記載にあわせ、適正化しました。(下線部参照) (旧)使用部位 (新)評価部位	2022/12/12	
71	NS2-添3-009-09	VI-3-3-7-1-9 逃がし安全弁搬出ハッチの強度計算書	P.11	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)重大事故等対処設備としての評価圧力及び評価温度は、以下のとおりとする。 (新)重大事故等対処設備としての評価圧力及び評価温度は、VI-1-8-1「原子炉格納施設の設計条件に関する説明書」より、以下のとおりとする。	2022/12/12	
72	NS2-添3-009-09	VI-3-3-7-1-9 逃がし安全弁搬出ハッチの強度計算書	P.11	「2.5 計算精度と数値の丸め方」の追加に伴い、逃がし安全弁搬出ハッチの自重について、桁数の記載を見直しました。また、ドライウエルの自重を追加しました。	2022/12/12	
73	NS2-添3-009-11	VI-3-3-7-1-11 制御棒駆動機構搬出ハッチの強度計算書	目次	計算精度及び数値の表示桁等を明確化するため、「2.5 計算精度と数値の丸め方」を追記し、ページ番号を適正化しました。	2022/12/12	
74	NS2-添3-009-11	VI-3-3-7-1-11 制御棒駆動機構搬出ハッチの強度計算書	P.3	許容引張応力(S)等の引用元を明確化したことに伴い、「発電用原子力設備規格(設計・建設規格…)」を繰り返し記載することとなるため、「設計・建設規格」と省略した記載とする旨を追記しました。(下線部参照) (旧)発電用原子力設備規格(設計・建設規格(2005年版(2007年追補版含む。))JSME S NC1-2005/2007) (新)発電用原子力設備規格(設計・建設規格(2005年版(2007年追補版含む。))JSME S NC1-2005/2007)(以下「設計・建設規格」という。)	2022/12/12	
75	NS2-添3-009-11	VI-3-3-7-1-11 制御棒駆動機構搬出ハッチの強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)許容引張応力 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表3 に定める値	2022/12/12	
76	NS2-添3-009-11	VI-3-3-7-1-11 制御棒駆動機構搬出ハッチの強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)設計引張強さ (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表9 に定める値	2022/12/12	
77	NS2-添3-009-11	VI-3-3-7-1-11 制御棒駆動機構搬出ハッチの強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)設計降伏点 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8 に定める値	2022/12/12	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
78	NS2-添3-009-11	VI-3-3-7-1-11 制御棒駆動機構搬出ハッチの強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)40℃における設計降伏点 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8 に定める材料の40℃における値	2022/12/12	
79	NS2-添3-009-11	VI-3-3-7-1-11 制御棒駆動機構搬出ハッチの強度計算書	P.5	計算精度及び数値の表示桁等を明確化するため、「2.5 計算精度と数値の丸め方」を追記しました。	2022/12/12	
80	NS2-添3-009-11	VI-3-3-7-1-11 制御棒駆動機構搬出ハッチの強度計算書	P.6	項目名の記載にあわせ、適正化しました。(下線部参照) (旧)制御棒駆動機構搬出ハッチの形状及び主要寸法を図3-1に、使用材料及び使用部位を表3-1に示す。 (新)制御棒駆動機構搬出ハッチの形状及び主要寸法を図3-1に、使用材料及び評価部位を表3-1に示す。	2022/12/12	
81	NS2-添3-009-11	VI-3-3-7-1-11 制御棒駆動機構搬出ハッチの強度計算書	P.7	項目名の記載にあわせ、適正化しました。(下線部参照) (旧)使用部位 (新)評価部位	2022/12/12	
82	NS2-添3-009-11	VI-3-3-7-1-11 制御棒駆動機構搬出ハッチの強度計算書	P.12	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)重大事故等対処設備としての評価圧力及び評価温度は、以下のとおりとする。 (新)重大事故等対処設備としての評価圧力及び評価温度は、VI-1-8-1「原子炉格納施設の設計条件に関する説明書」より、以下のとおりとする。	2022/12/12	
83	NS2-添3-009-11	VI-3-3-7-1-11 制御棒駆動機構搬出ハッチの強度計算書	P.12	「2.5 計算精度と数値の丸め方」の追加に伴い、制御棒駆動機構搬出ハッチの自重について、桁数の記載を見直しました。また、ドライウェルの自重を追加しました。	2022/12/12	
84	NS2-添3-009-13	VI-3-3-7-1-13 サプレッションチェンバアクセスハッチの強度計算書	目次	計算精度及び数値の表示桁等を明確化するため、「2.5 計算精度と数値の丸め方」を追記し、ページ番号を適正化しました。	2022/12/12	
85	NS2-添3-009-13	VI-3-3-7-1-13 サプレッションチェンバアクセスハッチの強度計算書	P.3	許容引張応力(S)等の引用元を明確化したことに伴い、「発電用原子力設備規格(設計・建設規格…)」を繰り返し記載することとなるため、「設計・建設規格」と省略した記載とする旨を追記しました。(下線部参照) (旧)発電用原子力設備規格(設計・建設規格(2005年版(2007年追補版含む。))JSME S NC1-2005/2007) (新)発電用原子力設備規格(設計・建設規格(2005年版(2007年追補版含む。))JSME S NC1-2005/2007)以下「設計・建設規格」という。	2022/12/12	
86	NS2-添3-009-13	VI-3-3-7-1-13 サプレッションチェンバアクセスハッチの強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)許容引張応力 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表3 に定める値	2022/12/12	
87	NS2-添3-009-13	VI-3-3-7-1-13 サプレッションチェンバアクセスハッチの強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)設計引張強さ (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表9 に定める値	2022/12/12	
88	NS2-添3-009-13	VI-3-3-7-1-13 サプレッションチェンバアクセスハッチの強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)設計降伏点 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8 に定める値	2022/12/12	
89	NS2-添3-009-13	VI-3-3-7-1-13 サプレッションチェンバアクセスハッチの強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)40℃における設計降伏点 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8 に定める材料の40℃における値	2022/12/12	
90	NS2-添3-009-13	VI-3-3-7-1-13 サプレッションチェンバアクセスハッチの強度計算書	P.5	計算精度及び数値の表示桁等を明確化するため、「2.5 計算精度と数値の丸め方」を追記しました。	2022/12/12	
91	NS2-添3-009-13	VI-3-3-7-1-13 サプレッションチェンバアクセスハッチの強度計算書	P.6	項目名の記載にあわせ、適正化しました。(下線部参照) (旧)アクセスハッチの形状及び主要寸法を図3-1に、使用材料及び使用部位を表3-1に示す。 (新)アクセスハッチの形状及び主要寸法を図3-1に、使用材料及び評価部位を表3-1に示す。	2022/12/12	
92	NS2-添3-009-13	VI-3-3-7-1-13 サプレッションチェンバアクセスハッチの強度計算書	P.7	項目名の記載にあわせ、適正化しました。(下線部参照) (旧)使用部位 (新)評価部位	2022/12/12	
93	NS2-添3-009-13	VI-3-3-7-1-13 サプレッションチェンバアクセスハッチの強度計算書	P.12	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)重大事故等対処設備としての評価圧力及び評価温度は、以下のとおりとする。 (新)重大事故等対処設備としての評価圧力及び評価温度は、VI-1-8-1「原子炉格納施設の設計条件に関する説明書」より、以下のとおりとする。	2022/12/12	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
94	NS2-添3-009-13	VI-3-3-7-1-13 サプレッションチェンバアクセスハッチの強度計算書	P.19	用語の統一のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)サプレッションチェンバ (新)サプレッションチェンバ 皿	2022/12/12	
95	NS2-添3-009-13	VI-3-3-7-1-13 サプレッションチェンバアクセスハッチの強度計算書	P.20	記載の明確化のため図中に要素数・節点数等を追記しました。	2022/12/12	
96	NS2-添3-009-15	VI-3-3-7-1-15 所員用エアロックの強度計算書	目次	計算精度及び数値の表示桁等を明確化するため、「2.5 計算精度と数値の丸め方」を追記し、ページ番号を適正化しました。	2022/12/12	
97	NS2-添3-009-15	VI-3-3-7-1-15 所員用エアロックの強度計算書	P.3	許容引張応力(S)等の引用元を明確化したことに伴い、「発電用原子力設備規格(設計・建設規格…)」を繰り返し記載することとなるため、「設計・建設規格」と省略した記載とする旨を追記しました。(下線部参照) (旧)発電用原子力設備規格(設計・建設規格(2005年版(2007年追補版含む。))JSME S NC1-2005/2007) (新)発電用原子力設備規格(設計・建設規格(2005年版(2007年追補版含む。))JSME S NC1-2005/2007) <u>(以下「設計・建設規格」という。)</u>	2022/12/12	
98	NS2-添3-009-15	VI-3-3-7-1-15 所員用エアロックの強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)許容引張応力 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表3 に定める値	2022/12/12	
99	NS2-添3-009-15	VI-3-3-7-1-15 所員用エアロックの強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)設計引張強さ (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表9 に定める値	2022/12/12	
100	NS2-添3-009-15	VI-3-3-7-1-15 所員用エアロックの強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)設計降伏点 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8 に定める値	2022/12/12	
101	NS2-添3-009-15	VI-3-3-7-1-15 所員用エアロックの強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)40℃における設計降伏点 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8 に定める材料の40℃における値	2022/12/12	
102	NS2-添3-009-15	VI-3-3-7-1-15 所員用エアロックの強度計算書	P.5	計算精度及び数値の表示桁等を明確化するため、「2.5 計算精度と数値の丸め方」を追記しました。	2022/12/12	
103	NS2-添3-009-15	VI-3-3-7-1-15 所員用エアロックの強度計算書	P.6	項目名の記載にあわせ、適正化しました。(下線部参照) (旧)所員用エアロックの形状及び主要寸法を図3-1に、使用材料及び使用部位を表3-1に示す。 (新)所員用エアロックの形状及び主要寸法を図3-1に、使用材料及び評価部位を表3-1に示す。	2022/12/12	
104	NS2-添3-009-15	VI-3-3-7-1-15 所員用エアロックの強度計算書	P.7	項目名の記載にあわせ、適正化しました。(下線部参照) (旧)使用部位 (新)評価部位	2022/12/12	
105	NS2-添3-009-15	VI-3-3-7-1-15 所員用エアロックの強度計算書	P.11	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)重大事故等対処設備としての評価圧力及び評価温度は、以下のとおりとする。 (新)重大事故等対処設備としての評価圧力及び評価温度は、 <u>VI-1-8-1「原子炉格納施設的设计条件に関する説明書」より</u> 以下のとおりとする。	2022/12/12	
106	NS2-添3-009-15	VI-3-3-7-1-15 所員用エアロックの強度計算書	P.11	「2.5 計算精度と数値の丸め方」の追加に伴い、所員用エアロックの自重について、桁数の記載を見直しました。また、ドライウェルの自重を追加しました。	2022/12/12	
107	NS2-添3-009-17	VI-3-3-7-1-17 配管貫通部の強度計算書	目次	計算精度及び数値の表示桁等を明確化するため、「2.5 計算精度と数値の丸め方」を追記しました。	2022/12/12	
108	NS2-添3-009-17	VI-3-3-7-1-17 配管貫通部の強度計算書	P.3	許容引張応力(S)等の引用元を明確化したことに伴い、「発電用原子力設備規格(設計・建設規格…)」を繰り返し記載することとなるため、「設計・建設規格」と省略した記載とする旨を追記しました。(下線部参照) (旧)発電用原子力設備規格(設計・建設規格(2005年版(2007年追補版含む。))JSME S NC1-2005/2007) (新)発電用原子力設備規格(設計・建設規格(2005年版(2007年追補版含む。))JSME S NC1-2005/2007) <u>(以下「設計・建設規格」という。)</u>	2022/12/12	
109	NS2-添3-009-17	VI-3-3-7-1-17 配管貫通部の強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、適正化しました。 (旧)許容引張応力 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表3 に定める値	2022/12/12	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
110	NS2-添3-009-17	VI-3-3-7-1-17 配管貫通部の強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)設計引張強さ (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表9 に定める値	2022/12/12	
111	NS2-添3-009-17	VI-3-3-7-1-17 配管貫通部の強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)設計降伏点 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8 に定める値	2022/12/12	
112	NS2-添3-009-17	VI-3-3-7-1-17 配管貫通部の強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)40°Cにおける設計降伏点 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8 に定める材料の40°Cにおける値	2022/12/12	
113	NS2-添3-009-17	VI-3-3-7-1-17 配管貫通部の強度計算書	P.4	計算精度及び数値の表示桁等を明確化するため、「2.5 計算精度と数値の丸め方」を追記しました。	2022/12/12	
114	NS2-添3-009-17	VI-3-3-7-1-17 配管貫通部の強度計算書	P.5	項目名の記載にあわせ、適正化しました。(下線部参照) (旧)代表とした配管貫通部X-81及びX-241の形状及び主要寸法を図3-1及び表3-1に、使用材料及び使用部位を表3-2に示す。 (新)代表とした配管貫通部X-81及びX-241の形状及び主要寸法を図3-1及び表3-1に、使用材料及び評価部位を表3-2に示す。	2022/12/12	
115	NS2-添3-009-17	VI-3-3-7-1-17 配管貫通部の強度計算書	P.7	項目名の記載にあわせ、適正化しました。(下線部参照) (旧)使用部位 (新)評価部位	2022/12/12	
116	NS2-添3-009-19	VI-3-3-7-1-19 配管貫通部ペローズ及びベント管ペローズの強度計算書	目次	計算精度及び数値の表示桁等を明確化するため、「2.5 計算精度と数値の丸め方」を追記しました。	2022/12/12	
117	NS2-添3-009-19	VI-3-3-7-1-19 配管貫通部ペローズ及びベント管ペローズの強度計算書	P.5	計算精度及び数値の表示桁等を明確化するため、「2.5 計算精度と数値の丸め方」を追記しました。	2022/12/12	
118	NS2-添3-009-20	VI-3-3-7-1-20 電気配線貫通部の強度計算書	目次	計算精度及び数値の表示桁等を明確化するため、「2.5 計算精度と数値の丸め方」を追記しました。	2022/12/12	
119	NS2-添3-009-20	VI-3-3-7-1-20 電気配線貫通部の強度計算書	P.3	誤記を訂正しました。(下線部参照) (旧)…「3. 評価部位」にて設定する箇所において重大事故等における温度、圧力による応力等が許容限界内に収まることを、「4. 構造強度評価」にて示す方法にて確認することで実施する。 (新)…「3. 評価部位」にて設定する箇所において重大事故等時における温度、圧力による応力等が許容限界内に収まることを、「4. 構造強度評価」にて示す方法にて確認することで実施する。	2022/12/12	
120	NS2-添3-009-20	VI-3-3-7-1-20 電気配線貫通部の強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)許容引張応力 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表3 に定める値	2022/12/12	
121	NS2-添3-009-20	VI-3-3-7-1-20 電気配線貫通部の強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)設計引張強さ (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表9 に定める値	2022/12/12	
122	NS2-添3-009-20	VI-3-3-7-1-20 電気配線貫通部の強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)設計降伏点 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8 に定める値	2022/12/12	
123	NS2-添3-009-20	VI-3-3-7-1-20 電気配線貫通部の強度計算書	P.4	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)40°Cにおける設計降伏点 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8 に定める材料の40°Cにおける値	2022/12/12	
124	NS2-添3-009-20	VI-3-3-7-1-20 電気配線貫通部の強度計算書	P.4	計算精度及び数値の表示桁等を明確化するため、「2.5 計算精度と数値の丸め方」を追記しました。	2022/12/12	
125	NS2-添3-009-20	VI-3-3-7-1-20 電気配線貫通部の強度計算書	P.5	項目名の記載にあわせ、適正化しました。(下線部参照) (旧)電気配線貫通部の形状及び主要寸法を図3-1及び表3-1に、使用材料及び使用部位を表3-2に示す。 (新)電気配線貫通部の形状及び主要寸法を図3-1及び表3-1に、使用材料及び評価部位を表3-2に示す。	2022/12/12	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
126	NS2-添3-009-20	VI-3-3-7-1-20 電気配線貫通部の強度計算書	P.6	項目名の記載にあわせ、適正化しました。(下線部参照) (旧)使用部位 (新)評価部位	2022/12/12	
127	NS2-添3-009-22	VI-3-3-7-2-1-1 ベントヘッダ及びダウンカマの強度計算	P.4	計算精度及び数値の表示桁等を明確化するため、「2.5 計算精度と数値の丸め方」を追記しました。	2022/12/12	
128	NS2-添3-009-22	VI-3-3-7-2-1-1 ベントヘッダ及びダウンカマの強度計算	P.7	許容引張応力(S)等の引用元を明確化したことに伴い、「発電用原子力設備規格(設計・建設規格…)」を繰り返し記載することとなるため、「設計・建設規格」と省略した記載とする旨を追記しました。(下線部参照) (旧)発電用原子力設備規格(設計・建設規格(2005年版(2007年追補版含む。))JSME S NC1-2005/2007) (新)発電用原子力設備規格(設計・建設規格(2005年版(2007年追補版含む。))JSME S NC1-2005/2007)(以下「設計・建設規格」という。)	2022/12/12	
129	NS2-添3-009-22	VI-3-3-7-2-1-1 ベントヘッダ及びダウンカマの強度計算	P.8	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)許容引張応力 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表5 に定める値	2022/12/12	
130	NS2-添3-009-22	VI-3-3-7-2-1-1 ベントヘッダ及びダウンカマの強度計算	P.8	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)設計引張強さ (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表9 に定める値	2022/12/12	
131	NS2-添3-009-22	VI-3-3-7-2-1-1 ベントヘッダ及びダウンカマの強度計算	P.8	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)設計降伏点 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8 に定める値	2022/12/12	
132	NS2-添3-009-22	VI-3-3-7-2-1-1 ベントヘッダ及びダウンカマの強度計算	P.8	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)40℃における設計降伏点 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8 に定める材料の40℃における値	2022/12/12	
133	NS2-添3-009-22	VI-3-3-7-2-1-1 ベントヘッダ及びダウンカマの強度計算	P.8	計算精度及び数値の表示桁等を明確化するため、「2.5 計算精度と数値の丸め方」を追記しました。	2022/12/12	
134	NS2-添3-009-22	VI-3-3-7-2-1-1 ベントヘッダ及びダウンカマの強度計算	P.9	項目名の記載にあわせ、適正化しました。(下線部参照) (旧)ベントヘッダ及びベントヘッダサポートの形状及び主要寸法を図3-1及び図3-2に、使用材料及び使用部位を表3-1に示す。 (新)ベントヘッダ及びベントヘッダサポートの形状及び主要寸法を図3-1及び図3-2に、使用材料及び評価部位を表3-1に示す。	2022/12/12	
135	NS2-添3-009-22	VI-3-3-7-2-1-1 ベントヘッダ及びダウンカマの強度計算	P.10	用語の統一のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)サブプレッションチェンバ強め輪 (新)サブプレッションチェンバ補強リング	2022/12/12	
136	NS2-添3-009-22	VI-3-3-7-2-1-1 ベントヘッダ及びダウンカマの強度計算	P.11	項目名の記載にあわせ、適正化しました。(下線部参照) (旧)使用部位 (新)評価部位	2022/12/12	
137	NS2-添3-009-22	VI-3-3-7-2-1-1 ベントヘッダ及びダウンカマの強度計算	P.11	用語の統一のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)サブプレッションチェンバ強め輪 (新)サブプレッションチェンバ補強リング	2022/12/12	
138	NS2-添3-009-22	VI-3-3-7-2-1-1 ベントヘッダ及びダウンカマの強度計算	P.15	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)重大事故等対処設備としての評価圧力及び評価温度は、以下のとおりとする。 (新)重大事故等対処設備としての評価圧力及び評価温度は、VI-1-8-1「原子炉格納施設的设计条件に関する説明書」より、以下のとおりとする。	2022/12/12	
139	NS2-添3-009-22	VI-3-3-7-2-1-1 ベントヘッダ及びダウンカマの強度計算	P.15	他の強度計算書と記載を統一するため、ベント系の死荷重の数値を追記しました。	2022/12/12	
140	NS2-添3-009-22	VI-3-3-7-2-1-1 ベントヘッダ及びダウンカマの強度計算	P.16	用語の統一のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)ベントヘッダ強め輪取付部、サブプレッションチェンバ強め輪 (新)ベントヘッダ補強リング取付部、サブプレッションチェンバ補強リング	2022/12/12	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
141	NS2-添3-009-22	VI-3-3-7-2-1-1 ベントヘッダ及びダウンカマの強度計算	P.25	計算精度及び数値の表示桁等を明確化するため、「2.5 計算精度と数値の丸め方」を追記しました。	2022/12/12	
142	NS2-添3-009-22	VI-3-3-7-2-1-1 ベントヘッダ及びダウンカマの強度計算	P.29	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)許容引張応力 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表5または告示第501号 別表第6に定める値	2022/12/12	
143	NS2-添3-009-22	VI-3-3-7-2-1-1 ベントヘッダ及びダウンカマの強度計算	P.29	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)設計引張強さ (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表9または告示第501号 別表第10に定める値	2022/12/12	
144	NS2-添3-009-22	VI-3-3-7-2-1-1 ベントヘッダ及びダウンカマの強度計算	P.29	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。 (旧)設計降伏点 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8値または告示第501号 別表第9に定める	2022/12/12	
145	NS2-添3-009-22	VI-3-3-7-2-1-1 ベントヘッダ及びダウンカマの強度計算	P.29	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)40℃における設計降伏点 (新)設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8または告示第501号 別表第9に定める材料の40℃における値	2022/12/12	
146	NS2-添3-009-22	VI-3-3-7-2-1-1 ベントヘッダ及びダウンカマの強度計算	P.29	計算精度及び数値の表示桁等を明確化するため、「2.5 計算精度と数値の丸め方」を追記しました。	2022/12/12	
147	NS2-添3-009-22	VI-3-3-7-2-1-1 ベントヘッダ及びダウンカマの強度計算	P.30	項目名の記載にあわせ、適正化しました。(下線部参照) (旧)ダウンカマの形状及び主要寸法を図3-1に、使用材料及び使用部位を表3-1に示す。 (新)ダウンカマの形状及び主要寸法を図3-1に、使用材料及び評価部位を表3-1に示す。	2022/12/12	
148	NS2-添3-009-22	VI-3-3-7-2-1-1 ベントヘッダ及びダウンカマの強度計算	P.30	項目名の記載にあわせ、適正化しました。(下線部参照) (旧)使用部位 (新)評価部位	2022/12/12	
149	NS2-添3-009-22	VI-3-3-7-2-1-1 ベントヘッダ及びダウンカマの強度計算	P.36	引用元の明確化のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)重大事故等対処設備としての評価圧力及び評価温度は、以下のとおりとする。 (新)重大事故等対処設備としての評価圧力及び評価温度は、VI-1-8-1「原子炉格納施設的设计条件に関する説明書」より、以下のとおりとする。	2022/12/12	
150	NS2-添3-009-22	VI-3-3-7-2-1-1 ベントヘッダ及びダウンカマの強度計算	P.36	他の強度計算書と記載を統一するため、ベント系の死荷重の数値を追記しました。	2022/12/12	
151	NS2-添3-009-22	VI-3-3-7-2-1-1 ベントヘッダ及びダウンカマの強度計算	P.38	「4.2.4 設計荷重」の記載に合わせ、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)ベント系に作用する自重及び圧力荷重による応力は、VI-3-3-7-1-5「ベント管の強度計算書」に示すベント系の解析モデルにて算出する。 (新)ベント系に作用する死荷重及び圧力荷重による応力は、VI-3-3-7-1-5「ベント管の強度計算書」に示すベント系の解析モデルにて算出する。	2022/12/12	